

書評

岩田 誠, 河村 満 編

《脳とソシアル》発達と脳

コミュニケーション・スキルの獲得過程

小西行郎

小児神経科医に示されたゴール

まずはじめに、本書が神経内科の2人の教授によってまとめられたことに驚きと、ある種の焦燥感を覚えた。どうして「発達」を小児科医ではなく内科の先生が？ しかし、そうした思いは読み進むうちに消え、この書は、われわれ小児神経科医を激励してくれていると思えるようになった。

発達障害という問題が社会的に大きな関心を呼び、さまざまな分野で多くの人が発言している中で、神経科学的立場から発達のメカニズムをとらえ、確かな情報を発信している書は比較的少ないように思われる。しかし本書は、内科医からの視点で編集されているがゆえに、胎児・新生児からの発達過程をたどるわけではないが、発達障害を持つ子どもの脳障害を科学的に説明し、発達障害を持つ子どもへの理解をより深めるのに大変に重要な本であることを認めざるを得ない。

共著の方々は、現在わが国においてそれぞれの分野の第一人者であり、当然ながら各章は豊富な資料と科学的な研究によって裏打ちされたものである。チンパンジーからヒトへ、小児神経学、児童精神学、発達心理学から脳科学まで、発達障害に関係するほとんどの分野を網羅しており、「発達障害はこころの問題」という

考えが相変わらず一部に根強く残り、療育の現場に混乱を招いている現在にあって、本書は貴重な1冊といえよう。

われわれ小児神経科医としては、この本にもろ手を挙げて降参するわけにはいかない気がするのも正直なところである。発達障害は基本的には発達過程の障害である。ゆえに、その発生メカニズムについては胎児期からの経時的な説明がなされなければならないと考えるからである。発生メカニズムが解明できなければ、根本的な療育方法の構築も、子どもへの理解も進まないと考えている。つまり、この本はある意味ゴールであり、そこまでの過程の解明はわれわれ小児神経科医がなさなければならない。めざすところが本書によってはっきりと示されたことに大いに鼓舞される。

岩田先生の温和な表情の中に小児神経科医への激励の気持ちを感じるのは、これまで先生にお会いするたびに、優しさと厳しさを感じていたからかもしれない。いつかまたお目にかかるまで、発達障害の発生メカニズムの一端でも解明しておきたいものである。

(同志社大学赤ちゃん学研究センター)

●A5 272 頁 2010 定価 3,780 円(本体 3,600 円+税) 医学書院